

「たくましく 未来を築く ウトロの子」

～「ふるさと知床学習」を通して、ふるさと「ウトロ」を誇りに思う児童生徒の育成～

学校名 斜里町立知床ウトロ学校

校長 長谷博文

担当者 堀 航

1. 活動の趣旨

本校は、「たくましく 未来を築く ウトロの子」を学校の総括目標として、その実現のために、「学びを創る」、「心と身体を鍛える」、「郷土を拓く」の3つの柱をテーマに教育活動を実践している。特に、「総合的な学習の時間」（1・2年生は「生活科」）においては、探究の過程を踏まえた「ふるさと知床学習」を位置付け、児童生徒が地域の自然や環境・産業・歴史に関心をもち、主体的な活動を通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指している。

2. 活動計画

| | 「ふるさと知床学習」のテーマ | 目 標 |
|-----|------------------|---|
| 1年生 | 「身近な人々と自然」 | 動植物の観察や地域の施設・人々に関する学習を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。 |
| 2年生 | 「身近な人々と町」 | |
| 3年生 | 「知床の自然」 | 地域の自然や生活、歴史について探究する学習を通して、粘り強く課題を解決していくための資質・能力を育成する。 |
| 4年生 | 「知床の生活・歴史」 | |
| 5年生 | 「知床の人々と産業」 | 地域の人々や産業、歴史などについて探究する学習を通して、習得した知識・技能を働かせながら課題を解決していくための資質・能力を育成する。 |
| 6年生 | 「知床の人々と観光」 | |
| 7年生 | 「知床の人と自然」 | |
| 8年生 | 「知床の為に私たちが出来る事Ⅰ」 | 世界自然遺産や将来への展望などについて探究する学習を通して、社会や自然との関わりにおいて自らの生活や行動を考えるための資質・能力を育成する。 |
| 9年生 | 「知床の為に私たちが出来る事Ⅱ」 | |

3. 活動事例

① 7年生「世界自然遺産・知床の現状と課題」

町博物館や公益財団法人の協力を得て、世界自然遺産内でフィールドワークを行い、知床の地形や生物相、ヒグマとの共生などについて学び、知床が現在抱えている課題についての理解を深めた。児童生徒は、知床の抱える課題を多面的に捉え、環境問題に主体的に取り組もうとしていた。



また、8年生の5月には、今までの学習を基に、1・2年生に対して「ヒグマレクチャー」を行い、ヒグマに出会わないための行動や、出会ってしまった時の対処法などを伝えた。

② 5年生「漁業で支える知床」

ウトロ地域の主な産業である漁業について学習を行った。漁船に同乗して鮭の定置網起こし体験や、サケマス孵化場の見学を行い、鮭の漁獲量が年々減っていることを実感し、今後も持続可能な産業としていけるよう探究活動を行った。



③ 9年生「課題解決のための発信活動」

9年生では、8年生までに探究的に学習してきた内容を基に、日本語と英語によるパンフレットを作成し、新千歳空港において発信活動を行った。



4. 成果と課題

○地域の教育資源を活用した活動を数多く取り入れたことにより、児童生徒が改めて地域の良さに気付き、ふるさと「ウトロ」に対する愛着や誇りを育むことができた。

○9年生での発信活動という目標があることで、児童生徒が9年間の見通しをもって学習に取り組むことができる。

●他教科・領域との連携を図った教科横断的な学習活動となるよう、教育課程を見直す必要がある。